

GU'DAY



- ② 群馬大学発、世界最先端の医療技術
- ④ 燃料電池自動車時代の旗手となるか
- ⑥ 教師としてみどり市で活躍中の卒業生と市長に聞く
- ⑧ 世界トップクラスの広告代理店「電通」をわかってほしいな会社?
- ⑩ 看護師にだって最も大切なことは「心」



がんを切らずに治療する、 重粒子線照射施設が本格稼働開始 その将来性を考える



今、群馬大学が関わるプロジェクトの中で、最も国内外から注目を集めているものが、重粒子線照射によるがん治療です。国内で3番目、大学内に設置されている治療施設としては日本初と

なる重粒子線照射施設は、がん治療の新たな選択肢の一つとして期待されています。2010年夏、いよいよ本格稼働を始めた、重粒子線がん治療を紹介します。

●ミリ単位の正確さで がん病巣に照射

知っていましたか？がんは日本人の死因第1位で31%を占め、新たにがんにかかる人は1年間に65万人、男性二人に一人、女性の三人に一人が生涯のうちに、がんに罹患するといわれています。全ての人にとって切実な問題であるがん治療に、新たなページが開かれました。それが重粒子線治療です。

重粒子線治療とは、粒子線・放射線治療の一種で、炭素イオンを加速させ、がん患者のがん組織にフォーカス照射して、細胞を死滅させる治療です。

痛みを伴わずに、がん病巣のみにミリ単位の正確さで、照射することができます。周囲の正常な細胞組織への影響が、放射線治療に比べて格段に少なくてすむことが、大きな特長です。さらに、一般の放射線が効かない骨肉腫などのがんにも効果が期待され、少ない照射回数で治療できるなどのメリ

ットもあります。

このように、患者の身体に負担の少ない重粒子線治療に、大きな期待が集まっています。

●なぜ、群馬大学で？

日本放射線腫瘍学会認定医500人のうち、群馬大学出身者が、なんと50人。群馬大学には、高度な放射線治療と核医学診断の実績があるのです。

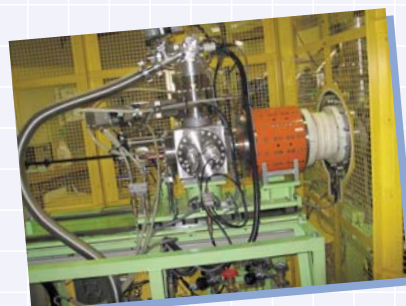
設置された重粒子線照射施設は、普及を目指して小型化された最新の装置です。小型化されたとはいえ、放射線医学総合研究所で稼働している装置と同等以上のクオリティを誇ります。

プロジェクトは、群馬県や県内市町村との協同事業。県立がんセンターや県内中核病院との連携も進める一方、医療を核とした地域活性化への期待も高まっています。

重粒子線治療は、まだスタート地点に立ったばかりです。

最先端のがん治療の将来は、今後を担う人材にかかっていると云えます。

「がん発病のメカニズムや治療法など含めて研究開発の余地は大きい。重粒子線照射施設を核に私たちと一緒に研究開発を進めてみませんか。」と語る和泉孝志理事・副学長



イオン源装置／ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが造られます



線形加速器／炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行います



シンクロトロン加速器／線形加速器から送られてきた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速されます



治療室／加速された炭素イオンはここで患者さんに照射されます

がん可視化技術に新たな展開！ 有機EL素材を改良したがん検出技術

竹内利行副学長・飛田成史工学研究科（応用化学・生物化学）教授・穂坂正博生体調節研究所（分泌制御）准教授・吉原利忠工学研究科（応用化学・生物化学）助教らの研究グループが、有機

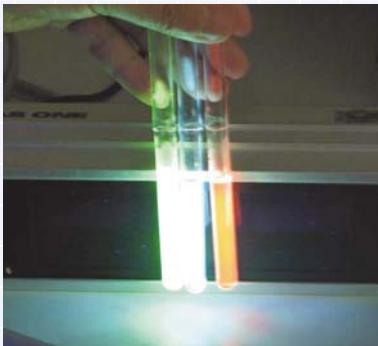
EL素材を利用した新しいがん検出技術を開発しました。この検出技術の注目すべき点や、今後の展望について迫ってみましょう。

●がん細胞だけが 発光する仕組み

工学部と生体調節研究所の研究チームが開発したのは、次世代テレビや照明・携帯電話などのディスプレイで注目される有機EL素材の一つイリジウム錯体を投与して、がん組織を発光させる技術です。

がん細胞は増殖が速いため、がん組織の血管新生が間に合わず、酸素欠乏状態になっています。そのため、がん細胞＝酸素欠乏、健全な細胞＝酸素が十分補給されている状態になっています。

イリジウム錯体は酸素が低下すると



改良のもとになった有機EL素材

光り出す性質をもっています。従ってがんを移植したマウスにイリジウム錯体を投与して、特定の光（励起光という）を当てると酸素欠乏状態になっているがん組織が発光します。

●光医療技術の 急速な進歩

生体内の病変を外から見る技術は、1895年にレントゲンが発見したX-線が1920年代後半に医学に応用されたことに始まります。その後、放射線で体内を観察する技術は1970年代にCT、PETとして発展し、さらに磁気を用いるMRIも開発されました。同じ頃、眼科領域ではフルオレスチンという蛍光剤を用いて眼底の血管走向を見る技術が開発され、光による生体可視化の先駆けとなりました。

2000年代に入るとヘモグロビンの光吸収を利用して血管走向を見る技術でがんを見つける方法も開発されました。しかし様々な病変の基盤となる低酸素状態を検出する方法は優れたものがなく、その出現が待たれていました。

今回、群馬大学グループが開発したイリジウム錯体を用いる低酸素環境検出技術はがんなどの低酸素病変の検出に応用でき、将来大変有望な技術です。この技術は、がんと同じように低酸素状態になっている脳梗塞や心筋梗塞の部位の特定や、その早期発見にも利用できます。

●医学と工学の連携

このように医学と工学による連携は、新たな技術開発を可能にし、医療に新しい道を拓くことができます。群馬大学の医工連携研究チームは、その道を確認なものにするために、多くのハードルを乗り越えて、早期実用化を目指しています。

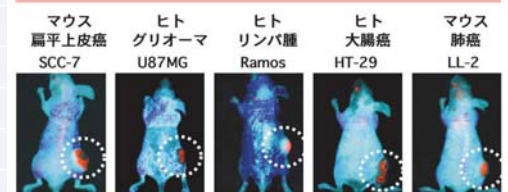


▲マウスに検査薬を投与
▼マウスに可視光線を投与



実験結果について協議する竹内副学長（左）と飛田教授（右）

イリジウム錯体を用いた癌のイメージング



マウスの中で赤く光っている部分ががん組織

カーボン素材を 表舞台に引き上げるための挑戦

群馬大学と日清紡ホールディングスが共同開発した「カーボンアロイ触媒」は、燃料電池に使用されている高価で希少な白金に代わる触媒として、いま世界の自動車業界から熱い注目を集めています。白金代替触媒として、世界最高レベルの発電性能を誇るカーボンアロイ触媒の秘密を探るべく、尾崎純一教授を訪ねました。

● 3～5年で、燃料電池用カーボンアロイ触媒を実用化

「僕はへそ曲がりだから、これまで構造材料と吸着剤がメインだったカーボンを、表舞台に引きずり出してやろうと思ったんです。」

「炭素だからこそ、できるものを」と研究してきた尾崎教授が、白金と同程度の電気化学的活性を持つ炭素を作り上げたのは、1992年のこと。その後、カーボンのメッカ群馬大学で研究を続けてきました。今、カーボン触媒は、燃料電池に使用されている白金に代わるものとして、大きく開花しようとしています。

2006年から始まった、日清紡ホールディングス（以降、日清紡HD）との共同研究の結果、カーボンアロイ触媒は白金代替触媒としては、世界最高レベルの発電性能を実現しました。

現在、日清紡HDは尾崎教授の研究シーズを生かして、このカーボンアロイ触媒の燃料電池自動車への、実用化を目指しています。「自動車用に求められるものは、非常に高いレベルだが、3～5年以内に製品開発を実現したい。」と話すのは、日清紡HDの齋藤直人氏（新規事業開発室）です。

燃料電池自動車の本格的普及は、国のシナリオ通りなら2030年。

トヨタ自動車が燃料電池自動車を発売するのが、2015年の予定です。尾崎教授は「我々は、この15年間に起こるイノベーションの主役を目指す。自動車用の優れた燃料電池が完成すれば、インフラを含めて車と社会の構造が変わるので、日本経済のみならず世界経済に非常に大きなインパクトをもたらすことができる。」と意気込んでいます。

● 水素を作り、蓄え、使う。 全部カーボンで

一方、日清紡HDは燃料電池用の触媒以外にも、多様な用途を研究開発中です。その分野の中心的スタッフとし

て活躍しているのが、尾崎研究室で学んだ小林里江子さん（2007年工学部卒）。

小林さんは日清紡HDの研究室に勤務しながら、先端知識、実験や情報交換のため、週の半分以上は尾崎研究室で研究を行っています。ものづくりや実験が大好きで群馬大学に進学した小林さんは、日清紡HDでもそのバイタリティ、カーボンに関する専門知識を生かして活躍中です。

そして、2010年。尾崎研究室の取組は文部科学省の「低炭素社会実現のためのネットワーク構築プロジェクト」に採択されました。目指すのは、カーボンを用いた低炭素社会。低炭素社会＝水素社会という切り口です。尾崎教授は、「共同で進めている燃料電池をベースに、水素をつくる、蓄える、使う。この全てを、カーボンを用いてやってしまおうというものです。カーボンは、育て方によって未来が大きく拓ける。

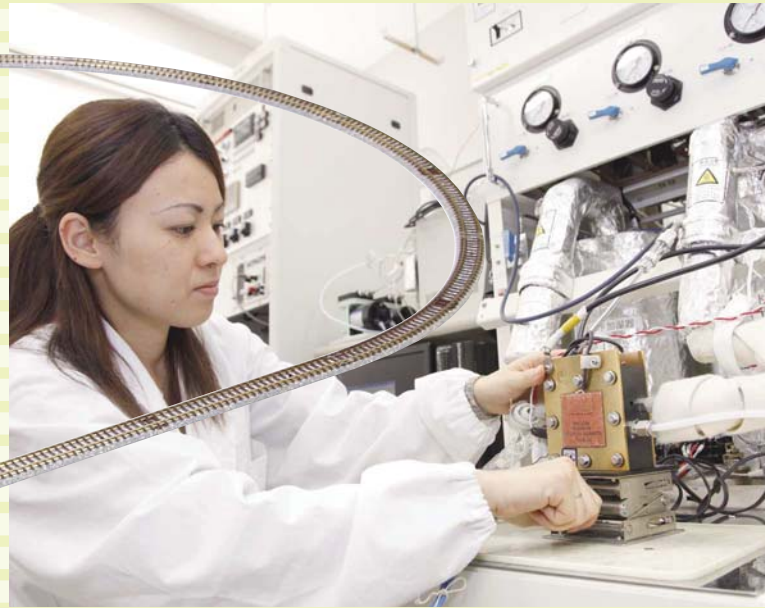
これをとことん研究し尽くすことが、私たちの研究室にしかできない発想です。できることならば群馬にカーボン・バレーを築きたい。」と力強く夢を語ってくれました。

尾崎純一教授

（工学研究科環境プロセス工学専攻）
福島県立会津高校出身。東北大学大学院（博士）修了。「これからは、水素と炭素の時代が来る。研究というのは、遊びで楽しみ。結果として面白いモノが生まれてくる。答えが出なくても、『何故?』と楽しみながら考え続けることが大切。」



カーボンアロイ触媒による燃料電池の原理を利用した模型



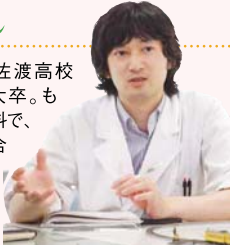
共同研究は、
まず人と人との交流から始まった。

【尾崎研究室の横顔】

今後数年以内に燃料電池を実用化させるとともに、それ以外にカーボン用途の柱を創り出すことを、長期的な目標にしている尾崎教授。研究室には、多彩な人材が集結し、それぞれが異なる研究をしています。

松井雅義さん

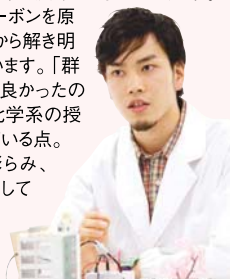
助教。新潟県立佐渡高校出身。東京理科大学卒。もともと生物系の学科で、素材と生物の組合せを研究。カーボン用途のもう一つの柱のキーワードを、「バイオ」



だと考える尾崎研究室の中心的存在。「違う分野との境界に新しいものが生まれるという、尾崎教授の考え方に共感しています。生物との関わりの中で、炭素に新しい未来を切り拓きたい。これからは、教員の研究内容で、大学を選ぶ時代です。そのためには、何にでも好奇心を持つこと。オープンキャンパスは、直に研究室にふれるチャンスなので、お見逃しなく。」

神成尚克さん

現在、群大工学研究科博士課程2年。桐蔭学園高校出身。飛び級制度を利用して、3年後期から尾崎研究室へ。現在、炭素の構造を研究中。さまざまな種類のカーボンを原子・分子のレベルから解き明かすべく奮闘しています。「群馬大学に入学して良かったのは、自分の好きな化学系の授業がすごく充実している点。どんどん興味が膨らみ、飛び級制度を利用して一刻も早く化学を極めてみたいと思いました。」



【日清紡ホールディングス】

繊維・ブレーキ・紙製品・化学製品といった既存事業に加え、太陽電池製造設備・燃料電池のセパレーターを展開中。その次を担う事業の一つとして進められているものが、燃料電池用のカーボンアロイ触媒だ。

齋藤直人さん

日清紡ホールディングス新規事業開発室無機機能材料チームリーダー。神奈川県立湘南高校出身。東大農学部卒。「カーボンアロイ触媒は、会社としても力を入れている研究分野であり、群馬大学との共同研究が成功することを大いに期待している。これから群馬大学で学ぶ方には、研究の世界は時々刻々とトレンドが変化しますが、それを受け入れる柔軟性が大切であり、研究分野に関して一流であることはもちろん、その他の多様な分野についても、広い知識が求められるので、大学時代には高校時代とは違った様々なチャレンジしてほしい。」



小林里江子さん

日清紡ホールディングス新規事業開発室。埼玉県立久喜北陽高校出身。群馬大工学部卒業後、東工大大学院を修了し、2009年入社。「群馬大学には、私の好奇心を満たしてくれる多様な授業があり、2年生のとき尾崎教授の授業を受け「あっ、この人だ! (笑)」って感じました。研究室では自分の興味によって、すぐに調べたり実験したり。それが楽しくて仕方なかったです。今、ものづくりを仕事にできているのは、すごく幸せです。」



企業の第一線で使命感を持って仕事している研究室の先輩、小林さんの姿は在学生にとっても大きな刺激となっている



研究用燃料電池

子どもたちに夢と希望 のある未来を与えたい

教師には教師の数だけドラマがある。数多い職業の中でも、感動の多い職業、教師。そんな逸話をお聞きました。

●(糸井) あふ小学1年生

時間のかかる小学1年生の子を、受け持ったことがありました。とても手を焼く子で毎日のように追いかけていました。めげずに一生懸命向き合っているうちに、彼は、いつしか毎朝、駐車場で私が出勤す



糸井隆史 Itoi takashi

1986年卒、笠懸南中勤務。担当教科は理科、中1担任、バスケット顧問。群馬県立桐生高校出身。「高校までは全く目立たない存在。群馬大学時代は生物部に所属し、春から秋の週末には尾瀬でバイト、加えてハンドボールの部長を務め、活動範囲が一気に広がり、自分を変えることができた」

るのを待ってくれるようになりました。

春になり私は別の学校へ異動することとなり、それから3週間の時間が流れました。

ひょんなことから私は元の学校に朝、立ち寄ることになりました。駐車場に入りいつもの場所に車を止めようとする……。なんと彼が迎えてくれたのです。

他の先生に聞いたところ彼は私が異動してからも毎朝、駐車場に立ち私が来るのを待っていてくれたのだそうです。私はこの感動を生涯忘れられません。

真剣に立ち向かえば、子どもたちもきっと心を開いてくれます。教師とは子供たちと感動を分かち合えるすばらしい職業です。

●(佐藤) 教育実習生

教育実習で私が担当したクラスには、野菜が全く食べられない子がいました。給食時に私は毎日、毎日、その子のそばで、おいしそうに野菜をほおばりながら、「野菜とてもおいしいよ。〇〇君も少しだけ食べてみよう。」と声をかけ続けました。やがて少しずつ食べてくれるようになり、実習期間の一月が過ぎる頃には、しっかりと野菜を食べられるようになりました。教育実習が終わり、大学へと戻った私の元へ、思いもかけない手紙が、〇〇君からでした。「先生ありがとう。これからも野菜を毎日食べるよ。」

教師の話す言葉の重みを実感し、教師になりたいと強く確信した瞬間でした。



佐藤奈津美 Sato natsumi

2010年卒、笠懸東小勤務。小3担任、群馬県立高崎女子高校出身。「高3になっても、志望校が決まらない状況。教員を目指す友人に刺激され、過去を思い出しながら自分もやってみよう、ようやく教員養成系に目標を定めることができました」

●(福田) 教師から教師へ 世代を超えて

良いこと悪いことの区別をしっかりと見分けられる力を、子どもたちに身に付けさせたい。悪いことをしたときには、今嫌われ



福田康子 Fukuda yasuko

1999年卒、大間々中勤務。担当教科は数学、中1担任。ソフトテニス部顧問。群馬県立桐生女子高校出身。「高校入学はJリーグ元年。大きく影響を受け高校大学時代は女子サッカー一色。夢はスポーツ医療がサッカー指導者。部活漬けだったため医療の道は断念し(笑)、教員を目指す」

てもいずれ理解してもらえはすだと考え、時には厳しく叱ることもあります。

部活動の顧問として指導していた生徒の一人に先日、久しぶりに会う機会がありました。彼が中学生の時には、本当に毎日のように怒っていたと思うので、私のことは「怖い先生」という認識だったと思います。そんな彼が、高校でも3年間テニスを続け、無事に卒業し、大学生としてがんばっていることを聞き、安心しました。

そんな彼が別れ際に「先生、おれ教師になりたいんだ。がんばるから……。」

まさか彼から……。私の思いが生徒に通じたのかなと、うれしく思った瞬間でした。

●(西村) 休日の学校

平日にやりきれない仕事をやろうと週末に学校へ行くと、教室がシーンと静まりかえっているんです。ふだんはうるさい子どもたちがいないと、寂しいと感じてしまう自分を発見して驚きました。何と言っても元気のある子どもたちに囲まれて、仕事ができるのが、教師という仕事の一番の魅力だと感じた瞬間でした。



西村晋一 Nishimura shinichi

2000年卒、あずま小勤務。小6担任、群馬県立高崎高校出身。「高校時代はまさにバスケット漬け。一流の指導者から、厳しい指導を受けた。そのかたわら出身中学のバスケット部の指導をするうちに、「教える」ことの魅力に目覚めた」



教師として働くということ。

教師ってどんな仕事なのだろう。教えてもらっていた側から、教える立場に変わるために、何が必要なのだろう。

【夢と勇気】

（保志）「教師にはゴールがない。伸びる可能性は、子どもたち自身の中に潜んでいる。伸びる機会をつくってやるのが私たちの役目じゃないかと。一步前に足を踏み出す勇気があれば、何とかなるという。そんな勇気を子供たちに伝えることが大切だと思う。」



保志守 Hoshi mamoru

1983年卒、みどり市教育委員会勤務、群馬県立渋川高校出身。「群馬大学時代は、共通の目標を持った仲間たちに恵まれました。勉強をしっかりとするのはもちろんですが、型にはまらない人間になってほしい」

（加部）「そうですね。子供たちはたくさんの夢を持っています。そしてその夢を持ち続けることで努力を続けることができるのだと思います。それを伝える教師一人一人が教育に対する夢・理想を持ち続けなければ、子供たちも未来への夢や希望を持ち続けることができないのではないのでしょうか。教師として常に夢を持ち続けることが大切だと思います。」

【学生時代の経験】

（西村）「教師には他の仕事とは違う苦労がたくさんありますね。でも苦しんだだけ自分に返ってくる喜びも大きいように感じます。その喜びを感じられるまでに、時間がかかっても、辛抱強く頑張ることが大切な気がします。」

（福田）「苦労といえば、学生時代のうちに失敗をたくさん経験しておくことが力になりますよ。私は、もっと広い世界を一度見てみたいと三年後期に、突然、準備もなく民間企業の就職活動を行いましたが無駄でした。甘かったそんな悔しい思いが、教師になってからすごく役に立っている気がします。」

（佐藤）「私も同感です。恐れずに、学生時代に失敗の経験を重ねて欲しいです。失敗してこそ、できない子どもの気持ちが理解できるし、結果として子どもに寄り添えます。全ての失敗に意味があると思います。」



宮村小百合 Miyamura sayuri

1992年卒、大間々南小勤務。小6担任、群馬県立桐生女子高校出身。「親から離れたい一心で、最初県外の短大に入学しました。その後、群馬大学を受験し直しました。結局、親と同居になってしまいました…（笑）」

【社会情勢】

（宮村）「最近では保護者や子どもたちの価値観が多様化していて。教師のやり方に対して、必ずしも全員に納得してもらえるとは限りません。でも100%の正解はない。しかし諦めずに努力を続ければ、多くの人々に理解してもらえるはず。」

（糸井）「そうですね。モンスターペアレンツが社会問題化していますが、毎日のように学級通信を配ることなどで、教育現場での取組や考え方をお知らせし、保護者や地域全体の理解と協力を得ることなど。地道な努力も重要です。」



加部豊 Kabe yutaka

1987年卒、みどり市教育委員会勤務、群馬県立渋川高校出身。「高校時代は帰宅部。大学入学と同時に、特に興味もなかった少林寺拳法部に入部してハマりました。部長も務め他大学との交流など、世界が一気に広がりました」



みどり市長 石原 条

小中学校時代、学期に一度の席替えといえば一大イベントでした。中3のある時、生徒たちが席替えをやり終えた後になって、担任の先生からルール変更とやり直しを命じられました。当然、ブーイングの嵐。すると、先生は「自分が間違っていた」と僕らに謝りました。とても威厳のある先生で、どんな場合でも、先生が生徒に謝罪することなどありえないと思っていただけに、衝撃的でした。それまでブツブツざわついてた教室中が、シーンとなっていました。驚き、嬉しさ…。上手く言い表せませんが、そのことをきっかけに、先生との信頼関係が、強くなったのは間違いありません。

どんな職業・仕事も素晴らしいものですが、教師という職業はやはり聖職だと思います。フレンドリーでもいいけれど、威厳や強さ・しなやかさも必要です。何よりも大切なのは、相手の立場に立って考えられる「思いやり」の気持ち。生徒の心にも、必ず通じるはず。信念を持って「聖職」に、立ち向かっていって欲しいと願っています。

時には生徒に謝ることができる先生の「信念」、「思いやり」その姿が心に響く

世界トップクラスの広告代理



株式会社 電通
第3営業局 営業部

橋爪 健 さん

群馬県立前橋高校出身

社会情報学部 2003年卒

広告代理店と聞いて、どんなイメージが浮かびますか？
企業のテレビCMや新聞広告を制作出稿している会社ですが、
業務内容はそれだけにとどまらない幅広いがあります。
マスコミ志望者の多い社会情報学部から、
世界トップクラスの巨大広告代理店電通に就職したのが橋爪健さん。
営業として活躍中の橋爪健（社会情報学部 二〇〇三年卒）さんに、
電通での仕事について聞きました。

学園祭実行委員長で 広告の面白さに目覚める

群馬大学時代の思い出は、学園祭実行委員長を務めた濃密な日々に、そのまま重なります。当時、群馬県が主催した「国民文化祭」という事業と連携して、県庁前で学園祭を開催しました。

群馬県庁や前橋市役所の職員たち、市民団体の人々と協力しながら、前代未聞のイベントを経験できたことは、大きな自信になりました。

このことがきっかけになり、広告に興味を抱くようになりました。前例のない取り組みを承諾し、さらに実施に向けて力を貸してくれた、社会情報学部の先生方の存在も忘れられません。

広告代理店の仕事とは？

広告代理店の主な業務は、広告を出したい広告主から依頼を受け、テレビCMや新聞広告などを制作し、情報として世に出していくことです。

広告主が広告を出す目的は、扱う商品やサービスの存在や特長を世の中に伝え、売上げを伸ばしたり、イメージを良くするためです。伝えるべき商品やサービスの特性によって、どんな広

告を打つべきか、どんな広告が効果的かは異なります。

まずは広告戦略や方法論を立てることから始まり、CMであれば映像内容、新聞であれば平面のデザインを制作し、出来上がった広告をテレビ局や新聞社などの媒体社に渡し、媒体社より買った広告枠に入れると、それが実際に世の中に出るわけです。

営業職は、広告主から依頼を受け、細かく意向を聞くことからスタートします。それを社のマーケティング担当と戦略を立案したり、クリエイティブ担当と広告内容を制作したり、メディア担当に依頼し媒体社から広告枠を確保したりと、一連の業務に携わります。

簡単に言うと、「仕事（広告依頼）をとって来て、社内の各専門家に依頼し、それぞれが円滑に進むようにして、依頼を完了させる」ということです。

電通最大の強みは「人」

私の担当は飲料メーカー。お酒関係の広告や販売促進の施策の提案・制作・実施が主な業務になります。その他には、公営ギャンブル関係、ギフト関係のクライアントも担当しています。

私が電通で携わってきた仕事の中



店「電通」、せれってどんな会社？

で最も印象深いのは、あるテレビCMです。二百人以上の地方の人たちに出演をお願いし、各地で三日間に渡り撮影し、地域の活性化を訴えるCMを制作しました。放映時の感動は、言葉では言い表せませんでした。

電通は広告業界のなかで、日本一の企業であり、世界有数のシェアと実力を持った会社です。世の中に広く深く伝えていく、大きな仕事に携われることは、非常に大きなやりがいがあります。新しい挑戦に対して、寛容な社風があることも魅力的です。

社としての研究開発や知識・ノウハウの蓄積はもちろんですが、私を感じる電通の最大の強み・素晴らしさは、つまるところ「人」です。社として、部として、チームとして団結が強く、高い組織力を持っています。その底力は、不可能なものなどないと感じるほどです。

広告+α コンサルタント的な 役割が今後の鍵

経済の不景気、各業界の不振は報道されている通りで、広告業界も決して例外ではありません。今後は、新たな

広告需要をつくるためインターネットなど、新しい媒体やサービスでの訴求特質を創出していくことや、スポーツをはじめとしたコンテンツの発掘と育成、海外市場への進出なども重要性の高い課題です。

また、従来の広告代理店としての枠組みを超えて、商品やサービスなどの経営に関わる重要な課題を、相談できるコンサルタントとしての役割を果たし、総合的にクライアントの価値向上に貢献できる存在となることが、重要だと感じています。

大学を卒業し七年近く 経った今だから言えること

社会情報学部では、垣根なく広い分野を学べます。知識の底上げや興味のきっかけになり、非常に良いスタンスです。広告については、学生時代は、ほぼ独学。企業では、ある程度広い知識を持っていることが求められ、情報関係・法律関係・パソコン実技など学

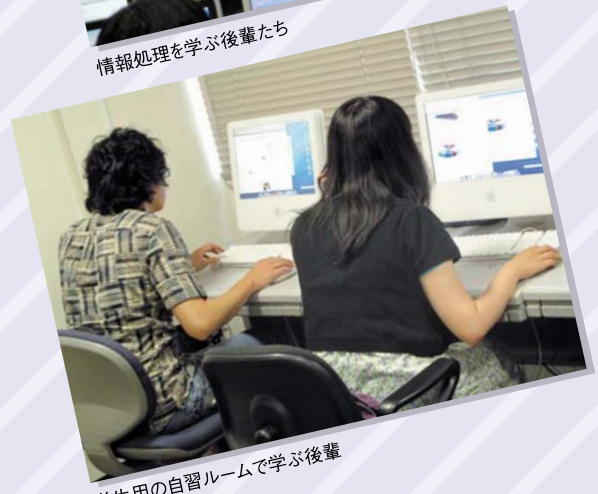
部時代にかじったことが役に立っています。

色々な学問にふれてみて、自分の興味のあることを探し、自分なりに追求していく姿勢を持ちましょう。何よりも「やはり学生の本分として、勉強は真面目にしておくべき。」

ここで言う勉強は、単位をしっかりと取る、授業に真面目に出るという意味ではなく、「自分の興味を見つけ、掘り下げること」です。大学時代は、自由で行動範囲も広がり、つい遊んでしまいがちですが、社会人になると、なかなか自分の興味を追及する時間はありません。学生時代の大切な時間や恵まれた環境を有効活用することで、就職活動の時に自分の方向性もはっきりと分かるし、どの業界に就職したとしても、スペシャリティを持った、優れたビジネスマンになることができると思います。



情報処理を学ぶ後輩たち



学生用の自習ルームで学ぶ後輩





☐編集・発行 国立大学法人 群馬大学総務部総務課広報係
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2
TEL027-220-7011 FAX027-220-7012
e-mail:s-public@jimu.gunma-u.ac.jp

☐制 作 上毛新聞アドシステム株式会社